News Release

一般社団法人日本物流団体連合会
Japan Association for Logistics and Transport

〒100-0013
東京都千代田区霞が関３丁目３番３号
全日通霞が関ビル５階
TEL:03-3593-0139
FAX:03-3593-0138
URL:www.butsuryu.or.jp

令和８年１１月９日

第29回「物流連懇談会」を開催

鴻池運輸株式会社 鴻池会長による
「私のユメ」と題する講演

（一社）日本物流団体連合会（略称：物流連）は、１１月２日（月）、東京都千代田区の法曹会館において、第２９回「物流連懇談会」を開催しました。この物流連懇談会は、物流業界の幅広い会員の参加を得て、会員への情報提供、会員相互の情報交換・交流のために行われているものです。今回は、鴻池運輸株式会社 代表取締役会長兼社長執行役員である鴻池忠彦氏から「私のユメ」と題する講演が行われ、会員企業の代表者や幹部など６９名の参加がありました。

参加者間の懇談が行われた後に、長澤・物流連会長から挨拶があり、講演が始まりました。講演では、初めに鴻池会長の自己紹介の後、第一部として、鴻池運輸の輸送と請負を半々とする事業概要の説明とトラック事業者の立場からこれからの輸送力をどう支えていくかについて、制度、データ活用、自動運転・電動化の三つの視点からの問いかけがありました。

まず、制度に関しては、適正原価、事業許可の５年更新制、軽油引取税の暫定税率廃止、運輸事業振興助成金の四点の現状について、それぞれに詳細な説明がなされました。

次に、これらの制度を現場の改善と将来への投資にどう結びつけるか、その具体策について四つの策が示されました。最初の策がデータの活用で、荷主と運送事業者で双方向のデータ活用を進めていくことの必要性について述べられ、続く策として、WMS（倉庫管理システム）TMS（輸配送管理システム） OMS（受注管理システム）o9（オーナイン）のような仕組みと現状の課題についての紹介があり、それらを活用した計画に輸送能力と地政学リスクを織り込む米国での先進事例も披露されました。三点目のトラックの自動運転、四点目のトラックの電動化については、最新の世界の潮流が動画によって詳しく紹介されました。

第二部では、働く乗り物を愛する鴻池会長が３０年前から実現したいと考えてきたという各種シミュレーターを置き、リサイクル工場を併設した「乗り物博物館」構想について、スライドと動画を駆使して熱く語られ、約一時間に及んだ講演を終えられました。講演後の質問についても、鴻池会長から詳細かつ丁寧な回答をいただき、盛況のうちに物流連懇談会を終えることができました。

物流連は、今後も会員に対して有益な情報を提供し、会員相互間の交流の場を設定してまいります。

以　上

担当：山本



講演する鴻池会長



講演会風景



懇談風景